工業

第1回

国語

# 大森学園高等学校　工業科

第1回　2月10日

令和6年度　入学試験問題

# 国語

## 注意

1　指示があるまで開いてはいけません。

2　問題用紙にも受験番号を算用数字で記入しなさい。

3　試験時間は**50分**です。

4　問題は問1から問25までで1ページから17ページにわたって印刷してあります。

5　解答はすべてマークシートで答えるようになっています。この問題用紙の裏に書いてある解答用紙記入上の注意をよく読んで答えなさい。

6　解答用紙と問題用紙は別々に提出しなさい。

| 受験番号 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|

次の文章を読んで後の問に答えなさい。設問等の都合で表記を改めた箇所がある。

「共生」[注1]とは文字どおり、他人とともに生きることである。しかし今日では、この言葉には調和や共存という、肯定的な支え合いというニュアンスが含まれる。だが、人間はそもそも他人と調和的に共存できるものなのだろうか。「共生」を明るく肯定的に捉えることが、かえって社会に何か負的な側面をもたらすことはないのだろうか。戦争、差別、格差。大多数にとっては幸せでも、一部の者たちにその代償を背負わせることは珍しいことではないだろう。

①そうした観点から、もう一度、「共生」という言葉を解きほぐす必要があると私は思う。そのためにはこの言葉を、他人とともにあることがいかなる関係を生み出すかという「複数性」（ハンナ・アレント『人間の条件』ちくま学芸文庫）の視点から、根本的に再検討してみることも大切に思われる。

複数性とは、異なる特質を有する人間たちが共存する状態を指す。その前提として、自分にとって他人は「他者」であり、他人にとっても自分が「他者」になるという認識がある。ここでいう「他者」とは理解しがたい謎めいた部分を有する存在であるということだ。この理解しがたさ、すなわち個々の人間のあいだに存在するズレこそが、ともにあることの②基本的前提であり、可能性なのである。

その例として、日本の子どもたちにも長いあいだ絶大な人気を博してきた児童文学ドリトル先生シリーズを取り上げてみたい。

このシリーズはふとしたことから動物語を解するようになったドリトル先生という医者が、動物たちとの交流を通して、人間社会にはない「寛容と調和」のユートピア[注2]を生きるという物語である。A「ドリトル（dolittle）」とは「やぶ医者」という意味であり、人間社会ではやぶ医者と呼ばれていた主人公が、動物の世界ではその気持ちに通じる名医として厚い信頼を得るという、人間社会での成功基準に根本的な疑問を投げかけた物語でもあった。

作者のヒュー・ロフティング（一八八六年生まれ）は、一九三三年に刊行されたシリーズ第九作『ドリトル先生月から帰る』以降、新しい作品を発表できないまま、十五年間に近い沈黙ののち、一九四七年に六一歳で死没してしまう。その翌一九四八年、遺作『ドリトル先生と秘密の湖』が刊行される。

この作品は、迫りくる老いのなかで、月世界のような不死を実現すべく努力していたドリトル先生が、その研究を断念するところから物語が始まる（以下の引用は井伏鱒二訳『ドリトル先生と秘密の湖』岩波少年文庫に基づく）。憔悴[注3]した先生を慰めるため、助手のスタビンズ少年と動物たちは、かつてノアの洪水以前の時代に「どうして人間がそんなに長生きできたのか」を尋ねるため、アフリカ

のジュンガニーカ湖に住むカメのドロンコに会いに行く旅へとドリトル先生を誘い出す。

ドロンコは初期の作品である『ドリトル先生の郵便局』で先生が病気を治療したことから知己[注4]を得た巨大なカメで、ノアの洪水以前の時代から生きていると言われていた。ここにドリトル先生の物語は、初期の作品でしばしば活躍の舞台となっていた思い出の地、アフリカへと戻ってきたことになる。

[B]、もはやドリトル先生その人はかつての快活さを失い、争いの止むことのない人間社会への絶望と、迫りくる死の不安にかられた人物に変容していた。それでも先生は、一縷[注5]の希望をもって、ドロンコに大洪水以前の世界の様子を尋ねる。しかし、そこもまたマシュツ王という独裁者――「世界じゅうの人間も、動物も、みんな奴隷にしたあの男」――が支配する暗い世界であった。

その美しい国は奴隷制によって支えられていた。「シャルバでは、すべてのものが、――世界のどこの国にもまして――素晴らしく見事でした。けれども、それは自由の民、つまりシャルバ人自身にとっての話でした」。つまり、ギリシャのポリスのように、奴隷制が存在することではじめて市民の自由が成立するというのが、大洪水以前の太古の人間社会の実態であった。

ちなみに、この作品が執筆されたのは、ナチス・ドイツが台頭する時代であった。[C]、ヒトラーを思わせるマシュツ王の悪徳ぶりが作品の通奏低音[注6]となり、そこにドイツの同盟国、大日本帝国を暗示する記述さえ見られる。もはやドリトル先生物語はユートピアどころか、血にまみれた当時の社会的雰囲気を濃厚に反映した作品へとその作風を大きく転換している。

太古の社会に争いのない平等な理想的社会を夢見てきたドリトル先生は、ドロンコに再会するや否や、その希望が打ち砕かれることになる。マシュツ王の宝物を目の前にしたドリトル先生は、この帝国の繁栄が多くの人々の血に染められたものだとして、人間の欲望のもつ根源的な罪深さを次のように嘆いている。③

「この宝物は、盗まれたものだ。征服された王や、殺された王子から、取りあげられたものだ。この金貨は、――戦いで殺された、罪もない男や女や、子どもたちの、苦しみの声をあげておるのだよ。金――ああ、それが世界の悪の源だ。」

[X]はどこにでも、いつでも存在する。それが、ロフティングが晩年に醒（さ）めた目で人間社会の現実と歴史を凝視（ぎょうし）した結論であった。[D]ドロンコによれば、このようなシャルバの不平等な社会制度を可能にしたのは、マシュツ王の考えた思想教育であったという。

「その方針は、自分の国の教育を正しい方向に導く、つまり、子どもたちに正直と公平を教えることではなかったのです。自分が、たやすく権力を握るためには、まちがった方向に子どもを教育するのがいい方法だ、と考えていました。」（中略）彼は子どもたちに、彼のことばをぜったいに疑わないように教えこんだのです。

しかし、マシュツ王の宿願である世界制覇が叶う直前に、その世界に大洪水が訪れる。この大洪水を予測していた者が二人いた。一人はドロンコ。もう一人は、ドロンコが囚（とら）われていた動物園の園長であるノアであった。ノアという名前が示すとおり、この物語は旧約聖書の洪水伝説をロフティングが再解釈したものなのである。ドロンコの予知した言葉を、動物語のわかるノアが盗み聴きしたという、ドリトル先生物語ならではの解釈が加えられている。

ノアは「《正しき者のみ救わるべし。》」という神の教えにもとづき、誰が箱船に乗せてもらえるか、誰が乗せてもらえないかを決定していった。そこには、「不潔動物」と「清潔動物」といった差別や、「正しき者」と「正しくない者」といった差別が存在していた。選ばれた者たちの世界であったはずの箱船のなかも、ユートピアではなかったのだ。自分の意に反して、箱船のメンバーに選ばれてしまったドロンコはノアを「うぬぼれや」と批判して、動物園で自分の面倒を見てくれたエバー少年とその恋人のガザが漂流しているのを救いに行く。そこには、この物語のノアが体現している選民思想[注7]に対する、ロフティングの強い批判が見られる（南條竹則『ドリトル先生の世界』国書刊行会）。

洪水を生き延びた動物たちは、「もし、このふたりが生き延びることが許されたら、かれらは、われわれのように子どもを生み、またもや、世界を残酷な主人どもでいっぱいにしてしまうだろう」として、「世界から人間を永久になくすんだ。われわれは、自由な世界がほしい。人間なんぞ、くそくらえ」と叫ぶ。そこには、動物たちの言葉に仮託[注8]された、人間に対するロフティングの根深い不信感が如実（にょじつ）に表れている。マシュツ王どころか、ドリトル先生の大好きな動物たちさえが、力の支配する暴力的世界を生きようとしていたのだ。まさにそれが、この物語の題名「秘密の湖」の語る、世界の「秘密」――□Y□の不在――であった。

エバーとガザは動物の奴隷となるが、ドロンコとその妻ベリンダの助けによってついには解放され、大洪水が広がった大海を越えて、文字どおり新世界となった「アメリカ」に渡る。言うまでもなく、アメリカとは英国人であるロフティングの移住先の、新しき希望に満ちた世界のことでもある。

壮大な叙事[注9]のようなドロンコの話の終わりには、ドロンコとベリンダによる、人間の未来を占うような対話が展開される。ベリンダは、コロンブスの新大陸発見を暗示するかたちで、ふたたび人間の邪悪な征服心によって犠牲にならないかと、アメリカの将来を懸念する。

他方、ドロンコは、「恐らく、すべては、このように計画されていたのだよ。たぶん、マシュツ王よりも、まだ大きな力を持った誰かが、人間は洪水のなかで死に絶えるべきではないと考えたんだろう。そして、その誰かが、おまえやわしのような、平和なカメをつかわして、人間を破滅から救い出させたのだろう」と、肯定的な未来を信じる返答をする。

結局のところ、そのいずれが本当の未来になるかについては、この物語のなかでは最後まで、明示されることはない。それは、答えは現在の人間の振る舞いと信念に委ねられているのだとロフティングが語りたかったがゆえだと私には思われる。

『ドリトル先生アフリカゆき』（一九二〇年刊）で始まった無垢なユートピアを描いてきたドリトル先生物語は、遺作『秘密の湖』において、人間の悪と向き合うなかで人間の未来を模索しようと試みる現実的な作品へと変容していった。

不死の夢が潰え、太古の昔から争い好きだったという人間の本質を知った主人公のドリトル先生は、かつてのユートピア世界の主であった快活な時期とは異なり、現実の無残さにただ戸惑っているかのように見える。そのとき、児童文学の世界の住人であるドリトル先生の出番はほとんどなくなってしまったのも、当然の成り行きである。幼い私には、それが大変不満であった。人生の暗い側面を示すこの作品は、ユートピアを夢見る幼い子どもには陰鬱なお話でしかなかったのである。

しかし、世界の暗い側面を引き受けつつ、他者とともに歩む強い意志をもって有限な命を精一杯生きていくこと。その自覚が、子供から大人へと成長していくことなのではないだろうか。それが、成熟するということではないか。私たちもまた善意に充ちた共同体というファンタジーを抜け出て、真の意味で大人へと精神的に成長していく過程にある。この戸惑いながらも真摯に模索する姿勢に、大人の読者を魅了する文学者へと飛躍していったロフティングの作家としての成長を見ることができると、壮年に差しかかった私も考えている。

そこにユートピアとしての共生から、現実を踏まえた他人との共生へ、その思考が成熟する鍵も隠されている。自分の考えや立場に固執するかぎり、それは共生ではなく、押し付けにすぎない。全体を一つの考えのもとに均質化しようとするからである。たとえシャルバの都のような奴隷はいなくても、その代わりに市民たちが国家や権力に、さらには民衆という正義を装った声に隷属[注10]させられるのだ。それに対して、複数性という立場は、理解困難な他者と向き合うことで、互いに予測不能な変化を引き起こす関係性にもとづくも

のなのである。

そして、こうした複数性のもとでの共生が可能になるとすれば、各人が目指すユートピアとは、文字どおり、どこにおいても完全には実現しない場所ではないだろうか。どこにもない場所だからこそ、思い思いの立場から異なるかたちで夢想できる希望にもなる。だからどんな場所、どんな状況においても、人間はユートピアを想起することができるのではないだろうか。

ただし、そのどこにもない場所を、目の前の具体的な場所に現出させるためには、まずは陰鬱な世界の現実を真摯に受け止めて、ベリンダとドロンコのように敬意を払うべき相手との対話を通して、その思考を巡らしていく必要がある。それが、ロフティングが私たちに託した遺言、共生のための「秘密」、すなわち明かしえない未来であるがゆえの「希望」なのである。

（磯前順一「ユートピアという『秘密』」）

注1　ニュアンス・・・言葉などの微妙な意味合い。　注2　ユートピア・・・空想された理想的な社会。

注3　憔悴（しょうすい）・・・やせ衰えること。　注4　知己（ちき）を得た・・・親友になった。　注5　一縷（いちる）・・・ごくわずかなこと。

注6　通奏低音（つうそうていおん）・・・表面には表れないで、奥底に動いている考えをたとえた表現。

注7　選民思想・・・神から選ばれた民族が他民族を導くという思想。　注8　仮託（かたく）・・・ゆだねる。

注9　叙事（じょじ）・・・事実や事件を、ありのままに述べたもの。　注10　隷属（れいぞく）・・・言いなりになること。

問1 ――線①「そうした観点」とあるが、それはどのような観点か。最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア 「共生」とは一般的に他人と調和的に共存するということだが、一方では一部の者たちに負の側面をもたらしているのではないかという観点。

イ 「共生」とは調和や共存という肯定的なニュアンスで捉えられることが多いが、実は大多数のものを不幸にしているのではないかという観点。

ウ 「共生」とは多くの人と共存して生きていくという肯定的なニュアンスの言葉であり、戦争や差別があっても共存は達成できるという観点。

エ 「共生」とは異なるものが共存して生活していくということだが、異なるものがあるために戦争や格差が発生しているのではないかという観点。

問2 ――線②「基本的前提」とあるが、それはどういう前提か。最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア 他人とは自分と全く異なる性質を持つように見えるが、実際はもう一人の自分であり、存在するズレを解消できる可能性を持つという前提。

イ 他人とは自分と異なる性質を持つものであるが、対して他者とは自分と同質の部分を多く持っているという前提。

ウ 他人とは自分と似ている存在であり、だからこそ自分にとって理解することが容易であるという前提。

エ 他人とは自分と異なる特質を持つ他者であり、自分にとって理解しがたい部分を持ちながらも共存しているという前提。

問3 ――線③「ドリトル先生は、ドロンコに再会するや否や、その希望が打ち砕かれることになる」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　争いばかりが起こる社会に失望したドリトル先生は、思い出の地であるアフリカならば自由と平等の社会が実現していると考えていたが、そのアフリカの社会は奴隷制の存在する不平等な社会だったから。

イ　平等で進歩がない現在の社会に不満を感じていたドリトル先生は、過去を振り返れば自由で活力のある競争社会が存在すると考えていたが、その過去の社会は独裁者が支配する暗い世界だったから。

ウ　迫りくる死への恐怖を感じていたドリトル先生は、過去に遡（さかのぼ）れば人が老いることも死ぬこともない理想的な社会が存在すると考えていたが、その過去の社会は現在と変わらぬ不老不死の存在しない社会だったから。

エ　現在の人間社会への絶望を感じていたドリトル先生は、太古の昔に遡れば争いのない平等な理想社会が存在すると考えていたが、その太古の社会は奴隷制によって繁栄している社会だったから。

**問4**　[A]・[B]・[C]・[D]に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　A　それゆえ　B　ところで　C　すると　D　しかも
イ　A　つまり　B　それに　C　また　D　けれど
ウ　A　しかし　B　なお　C　あるいは　D　したがって
エ　A　そもそも　B　しかし　C　ゆえに　D　そして

**問5**　[X]に入る適当な語を次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　不平等や悪　イ　公平や正義　ウ　正直と公平　エ　欲望や嫉妬（しっと）

問6 [ Y ]に入る適当な語を次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア 奴隷　　イ ユートピア　　ウ 暴力的世界　　エ 邪悪な征服心

問7 本文の内容を説明したものとして適当でないものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア ドリトル先生物語は、人間の悪と向き合う中で人間の未来を模索しようとする作品に変容した。

イ 世界の暗い側面を理解しつつ、他者と共に限りある命を精一杯生きていくことが成熟につながる。

ウ 自分の考えから出発し、全体を一つの考え方で均質化しまとめることがユートピアにつながる。

エ 複数性という考え方のもとで共生するならば、どんな場所や地域でもユートピアを想起できる。

次の文章は天沢夏月の『なぎなた男子!!』の一節である。この春、一ノ瀬翔、碓氷(うすい)拓弥、岩垣孝二、志摩泰誠が所属していた剣道部はある事件が原因で廃部となり、この四人は他の部活動に入り直すことも禁止され、やることもなく暇を持て余していた。そんなとき、新しく赴任してきた草薙(くさなぎ)先生が、四人に「なぎなたをやらないか」と誘ってきた場面である。よく読んで後の問に答えなさい。

放課後は屋上にいる、と思われているようだったので、気がつくと四人とも、放課後は屋上を避けるようになっていた。翔や泰誠はコソコソどこへともなく姿を消し、孝二はさっさと帰途につく。そうすることで、三人は草薙との遭遇を回避しているようだった。

碓氷拓弥は、というと、毎日図書室[1]に入り浸っていた。最近はもっぱら読書が暇つぶしだ。剣道部が廃部になって以来、拓弥は竹刀に触れることさえしていなかった。幼い頃からやってきた剣道は、ここのところ、正直行き詰まりを感じていた。拓弥は剣道を、武道の精神にもあるように、鍛錬の中で己を磨くことにこそ意味があると信じて続けてきた。最初の師匠の教えだ。だが、どんなに昇段しても、技術が向上しても、本当に自分が磨かれているのか、人として高まっているのか、確証を得ることはできずにいた。大会で結果

を残しても、人から褒(ほ)められても、肝心の心は成長していないんじゃないのか。本当の意味ではちっとも強くなんかなれていないんじゃないのか、と。

拓弥は昔から変わった子供だった。次に口にする言葉をよく吟味②する子供だった。と、親は言う。渋いお茶を好み、正座を苦にせず、日曜日には父親と並んで大河ドラマを見ていた。チャンバラのシーンになると目を輝かせていたそうで、両親はそれで剣道をやらせようと思ったらしい。道場の先生は子供ながらにオジン染(じ)みた拓弥の感性にいたく感心して、剣道に関しても技術よりもその精神を強く教え込んだ。「いつかきみは、防具ではなく人の心を打つ剣士になるだろう」とまで言った。

今となってはナンダソリャな一言だが、（　a　）拓弥は、事あるごとにその言葉を思い出す。それはある意味、極致なのだ。達人は構えただけで相手の心を挫(くじ)く。その強さは、紛れもない心の強さだ。それに比べて、自分はなんと未熟なのだろう。どんなに剣道が上手くなっても、強くなっても、心が成長していない。（　b　）あの事件(注)だって止められ――――いや、それは言うまいが。

（　c　）、拓弥は剣道によって己を鍛えることに、限界を感じていた。剣道部の廃部は、いいきっかけだった。少し休もうと思っていた。もう一つの趣味である読書に明け暮れるのはある意味［A］であり、それが同時に草薙からの逃避にもなっているのだった。

しかし、この草薙という教師、どうにも嗅(か)ぎつけるのが上手いらしい。

「碓氷くん」

図書室で声をかけられて、拓弥はびくっとした。

（　ア　）

気がつくと目の前に草薙が座っていて、ニコニコしながら指を組んでいた。

「……なにか？」

「碓氷くんは、剣道が上手らしいですね」

「はあ」

拓弥は曖昧(あいまい)に返事をした。図書室は私語厳禁だ。あまりペラペラとおしゃべりをするのは、罪悪感がある。

（　イ　）

おかまいなしに、草薙はまさしくペラペラとしゃべった。

「先生も、昔剣道をやってたんですよ。初段までいったんですけどね。でも、全然ヘタクソだった」

「はあ」
「なぎなたと出会ったのは、ちょうどきみくらいの頃でした。あっという間に魅せられて、なぎなたに明け暮れるうちに高校生活が終わってました」
「はあ」
③さっきから、はあとしか答えていない。
（　ウ　）
そこで、草薙はふっと真面目な顔になった。タイミングがタイミングだったので、いつものように「なので、きみもなぎなたをやりませんか」と言うのかと思いきや、その口から飛び出したのは意外な言葉だった。
（　エ　）
突然の問いかけに、拓弥はとっさに答えを見つけられなかった。
これから先、二年間。高校卒業までか。自分が剣道部を追われたことを、この人はすでに知っているのだろう。
「今のように、図書室にこもって、日々を過ごしますか。それもいいでしょう。読書は人生を豊かにします。何一つ、無駄にはならないと思います」
草薙は静かに拓弥の逃避を肯定し、それからゆっくりと微笑（ほほえ）んだ。
「でも、それでももしきみがもう一度、武道の中で自分を洗練したいと願うなら、僕はきみを歓迎しますよ。なぎなたも根幹には剣道と同じ精神を持っています。鍛錬の中で自分自身と向き合い、仲間と［B］していく中で、自分を磨いていく武道です」
心を見透（みす）かしたような草薙の言葉に、拓弥の気持ちは大いに揺れた。剣道とは似て非なる世界。興味がまったくないと言えば、きっとウソになるだろう。
ふと思った。今ここで、正直に言うのもいいかもしれない。自分は剣道で己を高めることに限界を感じているのだと。この人なら、わかってくれるかもしれない。少なくとも、笑いはしないだろう。
「……先生」
拓弥は口を開き、それからふと顔を上げて、結局こう言った。
「図書室は私語厳禁ですよ」

司書の先生が怖い顔をして草薙の後ろに立っていた。

草薙が慌てたように振り返り、ペコペコ頭を下げている隙に、拓弥は読みかけの本を棚に戻し足早に図書室を後にした。④少しだけ高揚した気持ちが、久しぶりに鼓動を熱くしていた。

注　あの事件…春休みの剣道部の練習試合で部員の一人（零児）が判定を不服として暴走し、顧問の先生を竹刀で叩き、先生に怪我をさせてしまった事件。翔は零児を殴って止めたが零児は停学となった。

問8　――線①「幼い頃からやってきた剣道は、ここのところ、正直行き詰まりを感じていた」とあるが、拓弥が剣道に行き詰まりを感じた理由として最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　剣道部が廃部になり、自分を磨く場所を失っていたから。
イ　剣道を通じて、己を鍛えることに限界を感じていたから。
ウ　大会で結果を出しても周囲が少しも評価してくれなかったから。
エ　剣道の稽古は技術の向上が最優先で己を磨けないと悟ったから。

問9　――線②「吟味」の使い方として適当でないものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　ＳＮＳの情報はよく吟味した上で活用するべきだ。
イ　入浴のとき親から「よく吟味して入りなさい」と言われる。
ウ　病院では食材をよく吟味して調理している。
エ　いくつかの意見を吟味した結果、彼女の案が採用された。

問10 （ a ）・（ b ）・（ c ）に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア a だから　b しかし　c しかも
イ a しかし　b だから　c ともかく
ウ a それでも　b そして　c なぜなら
エ a そして　b しかも　c しかし

問11 A ・ B に入る四字熟語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア A 一期一会　B 優柔不断
イ A 一喜一憂　B 感慨無量（かんがいむりょう）
ウ A 馬耳東風（ばじとうふう）　B 本末転倒
エ A 現実逃避　B 切磋琢磨（せっさたくま）

問12 ――線③「さっきから、はあとしか答えていない」とあるが、このときの拓弥の説明として最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア 草薙に予想もしていなかった場所で声をかけられ、戸惑っていると同時に図書館なので言葉を発することに気が引けている状態。
イ 草薙も以前に剣道をやっていたという事実を聞かされ、驚いていると同時に興味を持ったなぎなたに心を奪われている状態。
ウ 避けていた草薙に図書館にいるところを見つけられ、焦っていると同時にどうにかしてこの場を取り繕（つくろ）おうとしている状

態。

エ　静かに図書館で読書をしようと思っていたのに草薙に話しかけられ、迷惑に感じていると同時にいらだっている状態。

問13　――線④「少しだけ高揚した気持ちが、久しぶりに鼓動を熱くしていた」とあるが、拓弥がこのような気持ちになった理由として最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　こんなに熱意のある先生が自分を心配してくれていることに気を良くし、期待に応えたいという気持ちになったから。

イ　なぎなたが剣道と同じ精神を持っていると聞いて、自分がこれまで剣道を続けてきたのは間違いではなかったということを確信したから。

ウ　剣道で限界を感じていた鍛錬の中で己を磨く行為が、なぎなたとその指導者のもとでは実現するかもしれないと期待していたから。

エ　読書は人生を豊かにする、無駄にならないと言われ、今やっていることは自分の成長につながるということを嬉しく思って興奮したから。

問14　本文から脱落した次の一文を戻す箇所として最も適当なところを（　ア　）・（　イ　）・（　ウ　）・（　エ　）の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

〈脱落文〉　「君はこの先二年間、どうしようと考えていますか。」

次の文章を読んで後の問に答えなさい。設問等の都合上、表記を改めた箇所がある。

昔、延喜[注1]の御門の御時、五条[注2]の天神のあたりに、①大きなる柿の木の実ならぬあり。その木の上に仏現れておはします。京中の人こぞりて参りけり。馬、車も立てあへず、人もせきあへず、拝みののしりけり。

かくする程に、五六日あるに、右大臣[注3]殿心得ず思し給ひける間、誠の仏の、世の末に出で給ふべきにあらず。②我行きて試みんと思して、日の装束[注4]うるはしくして、檳榔[注5]の車に乗りて、御前多く具して[注6]、集まりつどひたる者ども退けさせて、車かけはづして榻[注7]を立てて、梢[注8]を目もたたかず、あからめもせずしてまもりて、一時ばかりおはするに、この仏暫しこそ花も降らせ、光をも放ち給ひけれ、あまりにあまりにまもられて、しわびて、大きなる糞鳶[注9]の羽折れたる、土に落ちて惑ひ[注10]ふためくを、童部ども寄りて打ち殺してけり。大臣はさればこそとて、帰り給ひぬ。

さて、時の人この大臣を、③いみじくかしこき人にておはしますとぞののしり□。

『宇治拾遺物語』

注1　延喜の御門・・・醍醐天皇。
注2　五条の天神・・・京の五条の南。
注3　右大臣殿・・・仁明天皇の息子。
注4　日の装束・・・昼間の装束。
注5　檳榔の車・・・牛車の一つ。
注6　具して・・・引き連れて。
注7　榻・・・牛車を引くための棒。
注8　あからめ・・・よそ見。
注9　糞鳶・・・鷹の一種。
注10　ふためく・・・ぱたぱたとする。

問15　――線①「大きなる柿の木の実ならぬあり」の現代語訳として最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　大きな柿の木で、実が実った木がある。
イ　大きな柿の木で、実が実らない木がある。

ウ　大きな柿の実が、たくさん実った木がある。
エ　大きな柿の実がなるはずなのにならない木がある。

問16　――線②「我」とは誰のことか。最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　延喜の御門　　イ　仏　　ウ　右大臣殿　　エ　糞鳶

問17　――線③「いみじくかしこき人」とは「非常に賢い人」という意味であるが、なぜそのような評判になったのか。最も適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　周りの人は仏が現れても半信半疑だったが、右大臣はそれを本当の仏だと断言できたから。
イ　周りの人は仏が現れたと拝んでいるが、右大臣はそれを糞鳶と見抜いて撃ち殺したから。
ウ　右大臣は、糞鳶が本当は仏だったということを童部たちに納得させることができたから。
エ　右大臣は仏が糞鳶だということを見抜いて、周りの人たちの誤解を解くことができたから。

問18　□に入る適当な語を次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　けら　　イ　けり　　ウ　ける　　エ　けれ

問19　『宇治拾遺物語』は鎌倉時代の作品である。この時代に活躍した人物として適当なものを次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

ア　鴨長明　　イ　清少納言　　ウ　紫式部　　エ　松尾芭蕉

問20 次の文の――線のカタカナにあてはまる漢字を次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

夜勤の仕事が続いて疲労が蓄セキした。

ア 関　イ 席　ウ 責　エ 積

問21 次の文の――線のカタカナにあてはまる漢字を次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

耳をスませて鈴虫の声を聞く。

ア 住　イ 済　ウ 澄　エ 空

問22 次の□に共通してあてはまる漢字を次の中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

□覚　□誤　交□

ア 触　イ 錯　ウ 互　エ 正

問23 次のア～コのひらがなの中に、後の語群の読み方に該当しないものが一つある。その記号を解答欄にマークしなさい。

ア いなか　イ ゆかい　ウ ひつぜん　エ なっとう　オ とこう

カ ふよ　キ しんぼう　ク ぼくじゅう　ケ まんたん　コ ちんたい

語群【 渡航　田舎　愉快　付与　必然　墨汁　万端　賃貸　辛抱　納豆 】

次の――線の品詞は何か。後にあげるア～コの中から選んで、その記号を解答欄にマークしなさい。

問24　校庭に開校百周年の記念碑が建つ。

問25　物価が高騰して、国民の生活が苦しくなる。

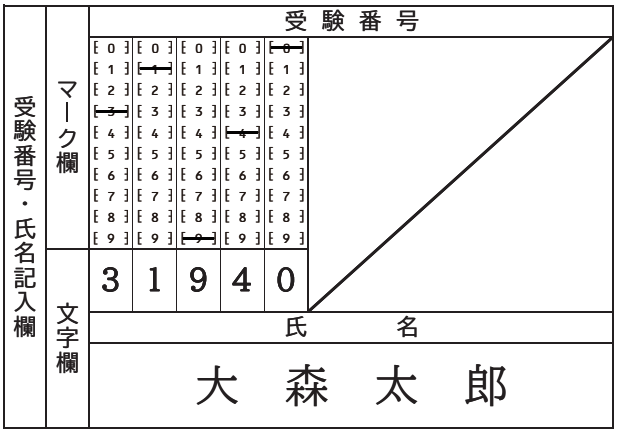
ア　名詞　　イ　動詞　　ウ　形容詞　　エ　形容動詞　　オ　接続詞

カ　感動詞　　キ　連体詞　　ク　副詞　　ケ　助詞　　コ　助動詞

# 解答用紙記入上の注意

## 記入上の注意

1. この用紙は、コンピュータが直接読み取るので汚したり、折り曲げたりしないで下さい。
2. 記入はHB以上の鉛筆・シャープペンシルを使用して下さい。
3. 間違いは消しゴムで完全に消して下さい。
4. マークは［　］の枠内に、［—］のように線を引いて下さい。ぬりつぶす必要はありません。
5. 誤って破れたり、汚したり、折り曲げたりしたときは、監督者から新しい用紙をもらって下さい。
6. 受験番号・氏名・解答欄の記入方法は、問題用紙の記入注意をよく読んで下さい。




## 解答欄の記入の仕方

1. 問題は問1から問25まで17ページにわたって印刷してあります。
2. 問題によって解答群は（ア）から（エ）まで、あるいは（ア）から（コ）までなどさまざまですが、答えは1つしかありません。
3. 各問題の答えは解答用紙に明確にマークしなさい。
4. 問題をよく読んで、解答群の中から、正しいと思う答えの記号を選びます。

   例　次の熟語の読み方の正しい解答を選びなさい。

   会 得（ア．エトク　　イ．アイトク　　ウ．カイトク）

   正しい答えは「ア」ですから、文字欄に（ア）と記入し、「解答マーク欄」に線をひきます。（右記入例参照）
5. 解答用紙と問題用紙は別々に提出しなさい。
6. 試験時間は50分です。
7. 合図があるまで開かないで下さい。

## マークシート記入例